

2024年5月13日

各 位

会 社 名 日本トランスシティ株式会社  
代 表 者 名 取締役社長 安藤 仁  
(コード番号 9310 東証プライム・名証プレミア)  
問 合 せ 先 執行役員 総務部長 平岡 豊  
(TEL 059-336-5018)

中期経営計画の上方修正および資本コストや  
株価を意識した経営の実現に向けた対応

当社は、2024年5月13日開催の取締役会において、中期経営計画の上方修正および資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、別紙のとおり決議いたしましたので、お知らせいたします。

以 上

「中期経営計画の上方修正および  
資本コストや株価を意識した  
経営の実現に向けた対応」

2024年5月13日



日本トランスシティ株式会社

証券コード 9310  
東証プライム・名証プレミア



## 物流を通じて社会に貢献する

人の社会生活に必要な不可欠な物流。  
日本トランスシティグループは物流を通じて、  
人と人を結び、都市と都市をつなぎ、  
新しい夢と文化を育みます。

### 企業理念

#### 事業領域

グローバルな視点から、システムティックな物流と新たな活動分野を創造する。

#### 社会的役割

地域とともに生き、広く社会の発展に貢献する。

#### 企業文化・風土

人間性豊かな、高感度・行動型集団を目指す。

# 中期経営計画 数値目標の上方修正



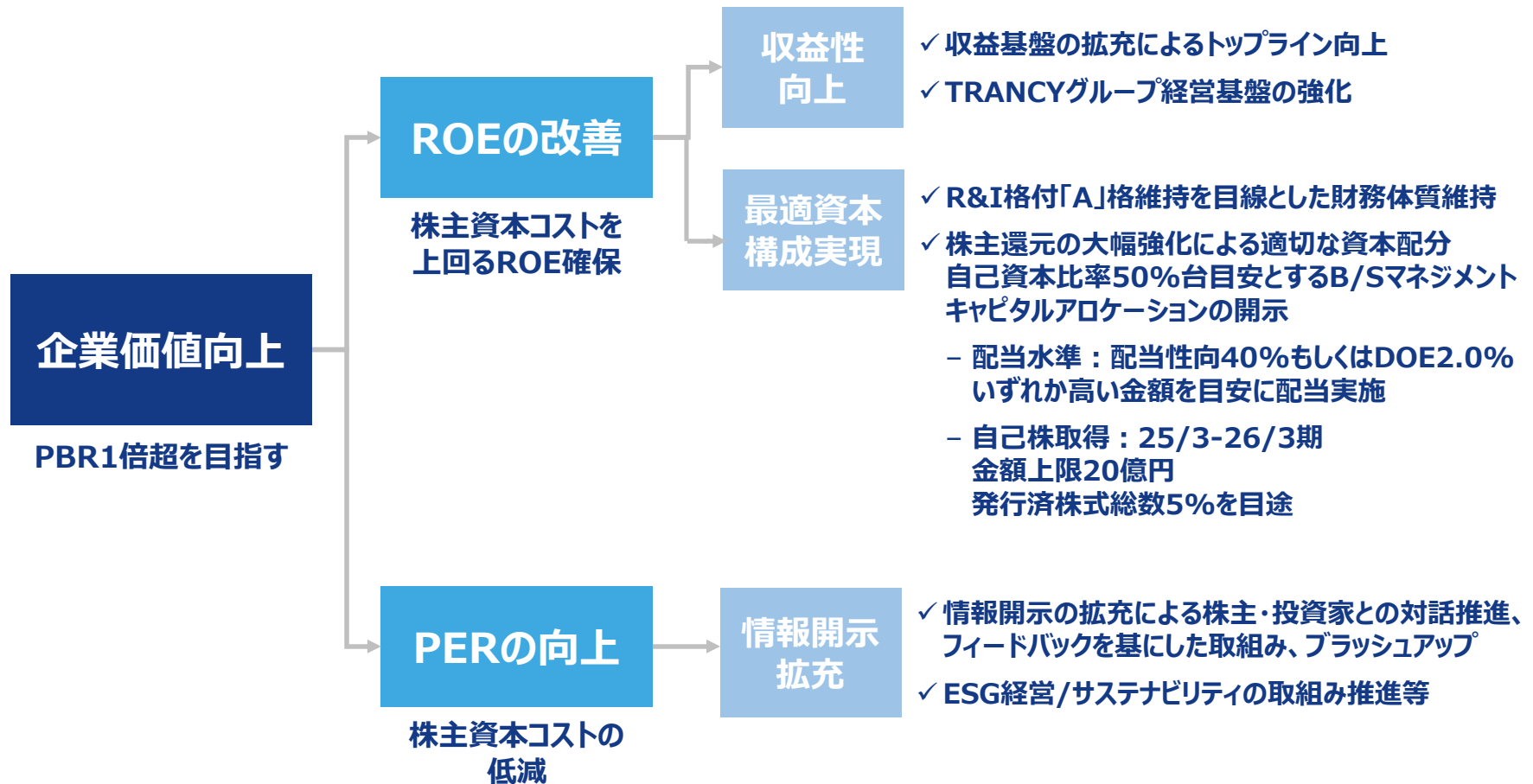
経営資源の効率化により収益性改善、足元の業績動向を踏まえ  
現中期経営計画の数値目標を上方修正

加えて更なる企業価値向上に向けた経営指標を新たに目標設定

| 項目      | 修正前 数値目標<br>2026年3月期 | 修正後 数値目標<br>2026年3月期 | 増減                |
|---------|----------------------|----------------------|-------------------|
| 連結売上高   | 1,300億円以上            | 1,300億円以上            | 変更なし              |
| 連結経常利益  | 70億円以上               | 80億円以上               | +10億円<br>(+14.2%) |
| 連結経常利益率 | 5.4%以上の維持            | 6.0%以上の維持            | +0.6%             |

## 中長期的な企業価値向上の実現に向けて、資本・財務戦略の大幅な見直しを実施

資本コストや株価を意識した経営を実践するにあたり、目標ROE、株主還元指標を新たに設定  
株主資本コストを上回るROEを目指し、最適資本構成に向けて株主還元を強化

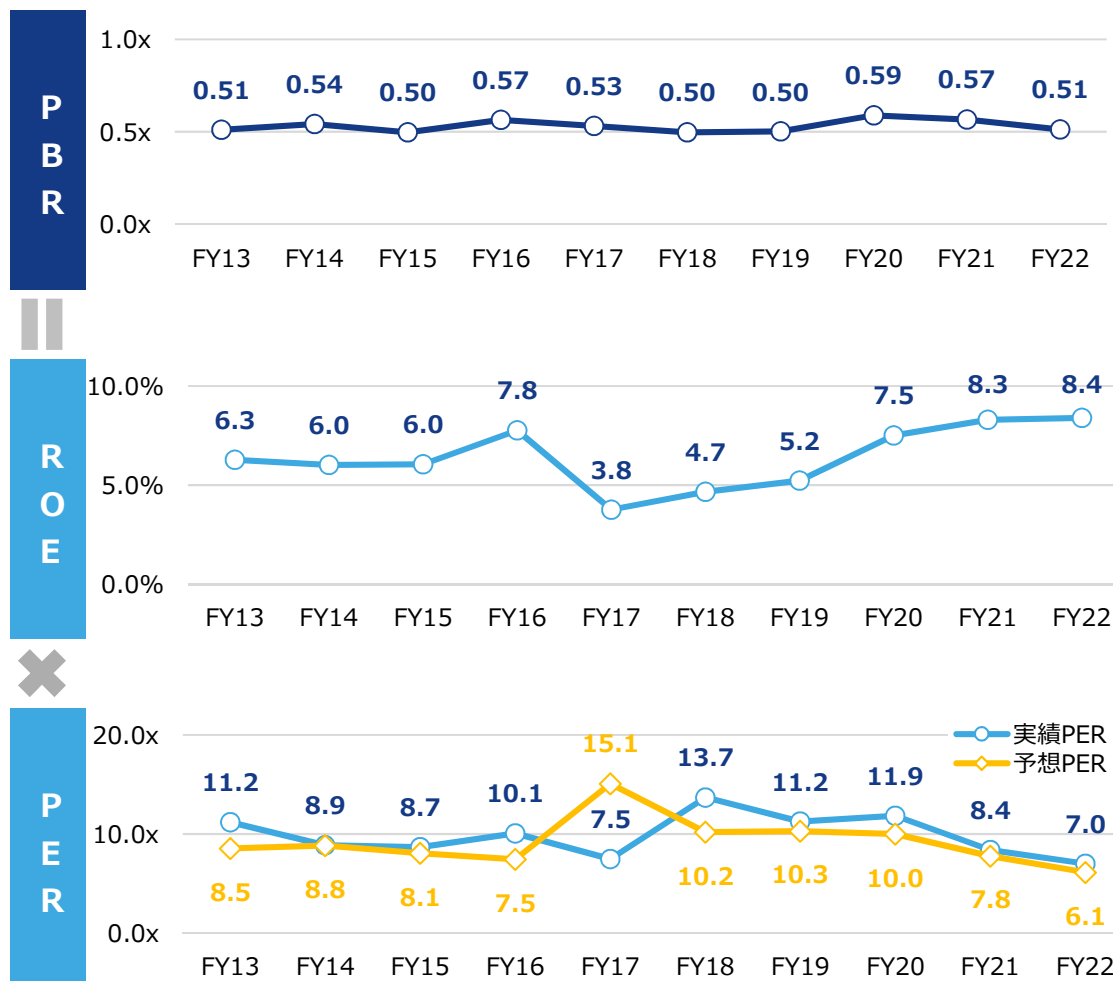


# 現状認識/PBR = ROE × PER



## PBRが1倍を割っている状況が継続

株主資本コストを上回るROE確保、情報開示の拡充等により成長期待を向上させる取組みが課題



### 現状認識・今後の課題

- PBR1倍割れ継続
- 業績拡大、収益性改善局面でも反応せず

- 海上運賃高騰により直近はROE8%超の水準
- 継続的に株主資本コストを上回るROEの確保

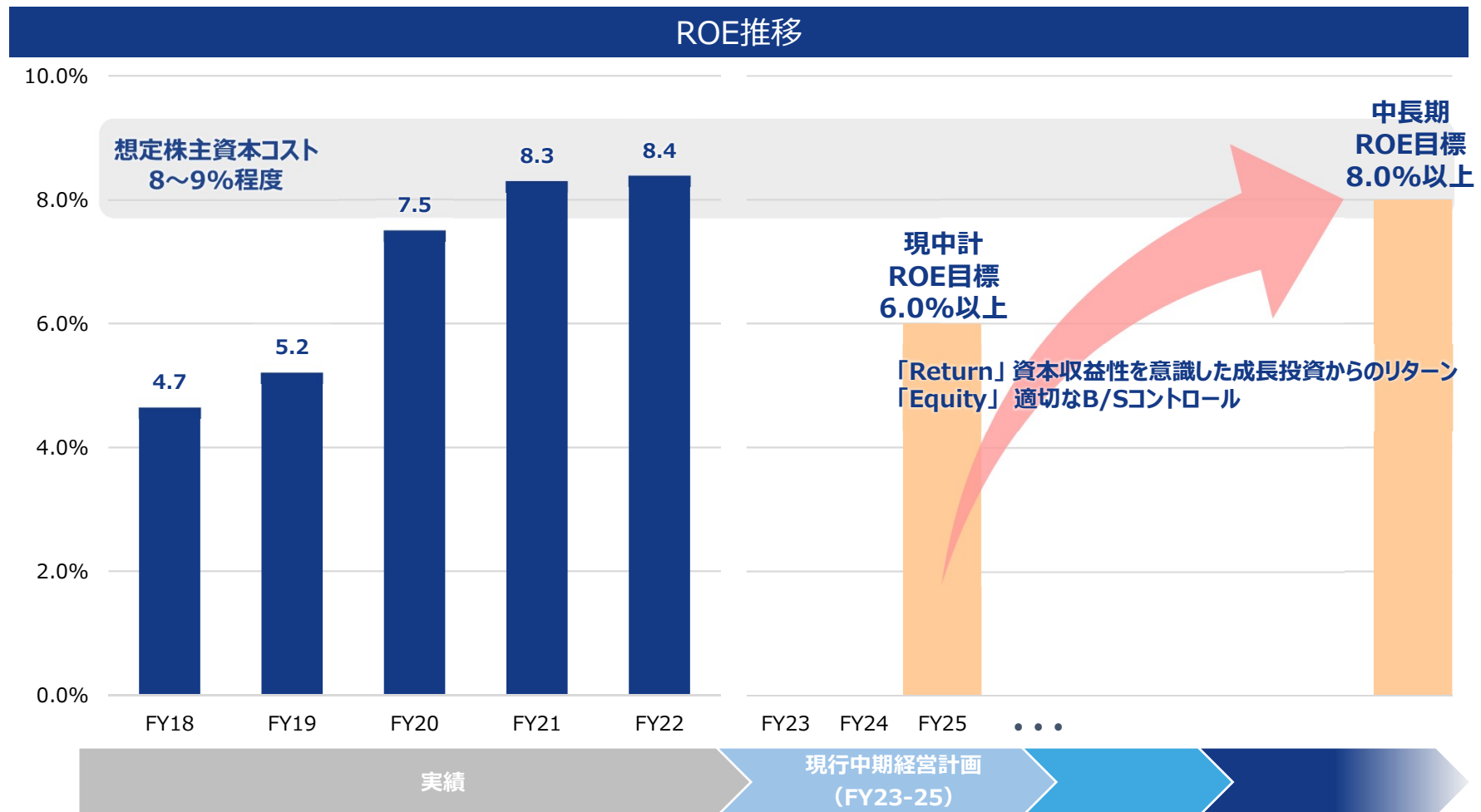
- PERは低下傾向  
足元1桁台で推移
- 株主・投資家の成長期待向上に資する情報開示拡充

# 現状認識/ROE-株主資本コスト



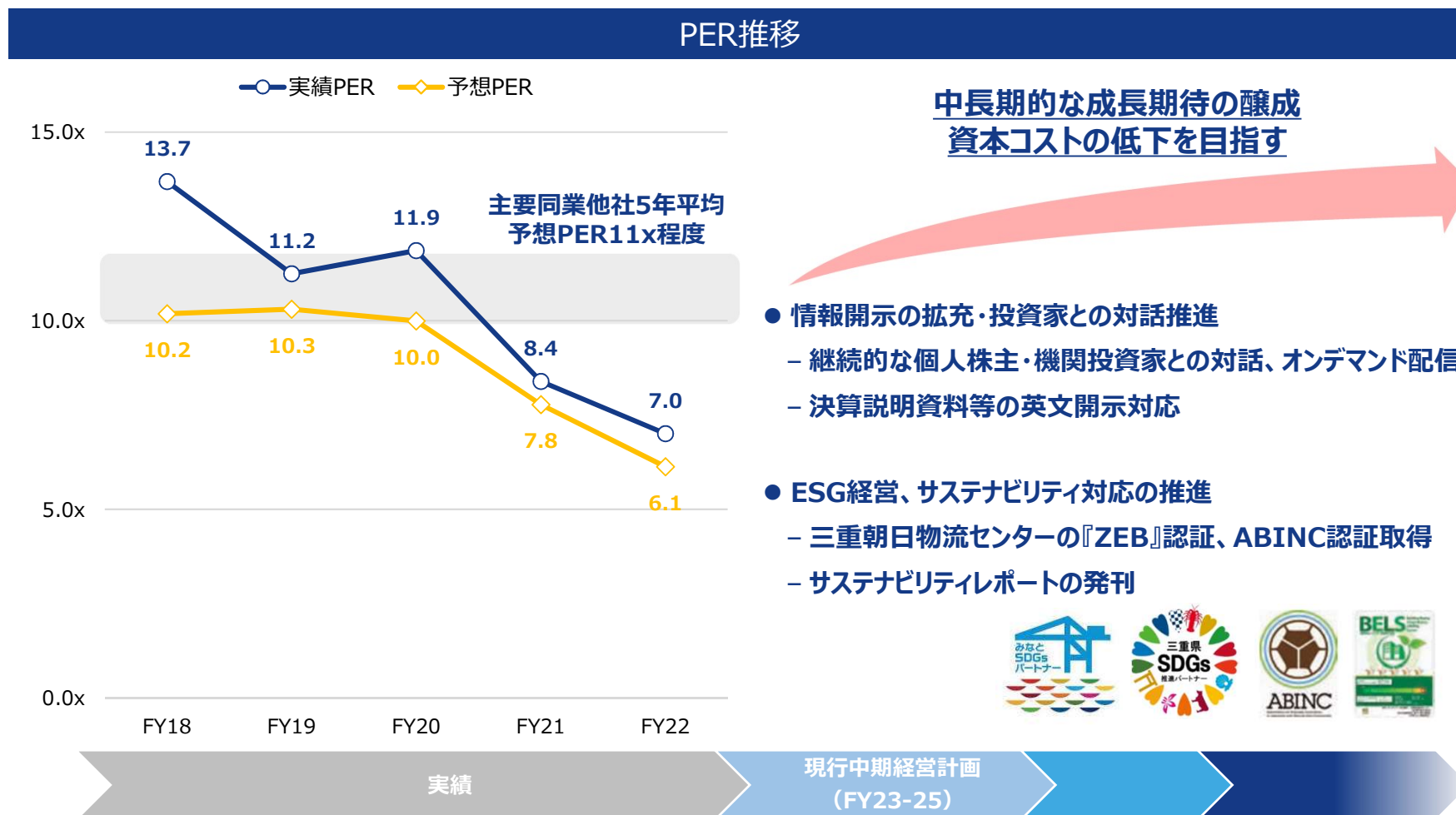
当社が認識する株主資本コストはおよそ8~9%程度 (CAPM、残余利益モデルにて試算)

- 株主資本コストを上回る資本収益性を継続的に確保することが課題  
経営目標としてROE目標を新設、資本コストや株価を意識した経営を実践



## PERは低下傾向にあり、主要同業他社と比較しても低水準

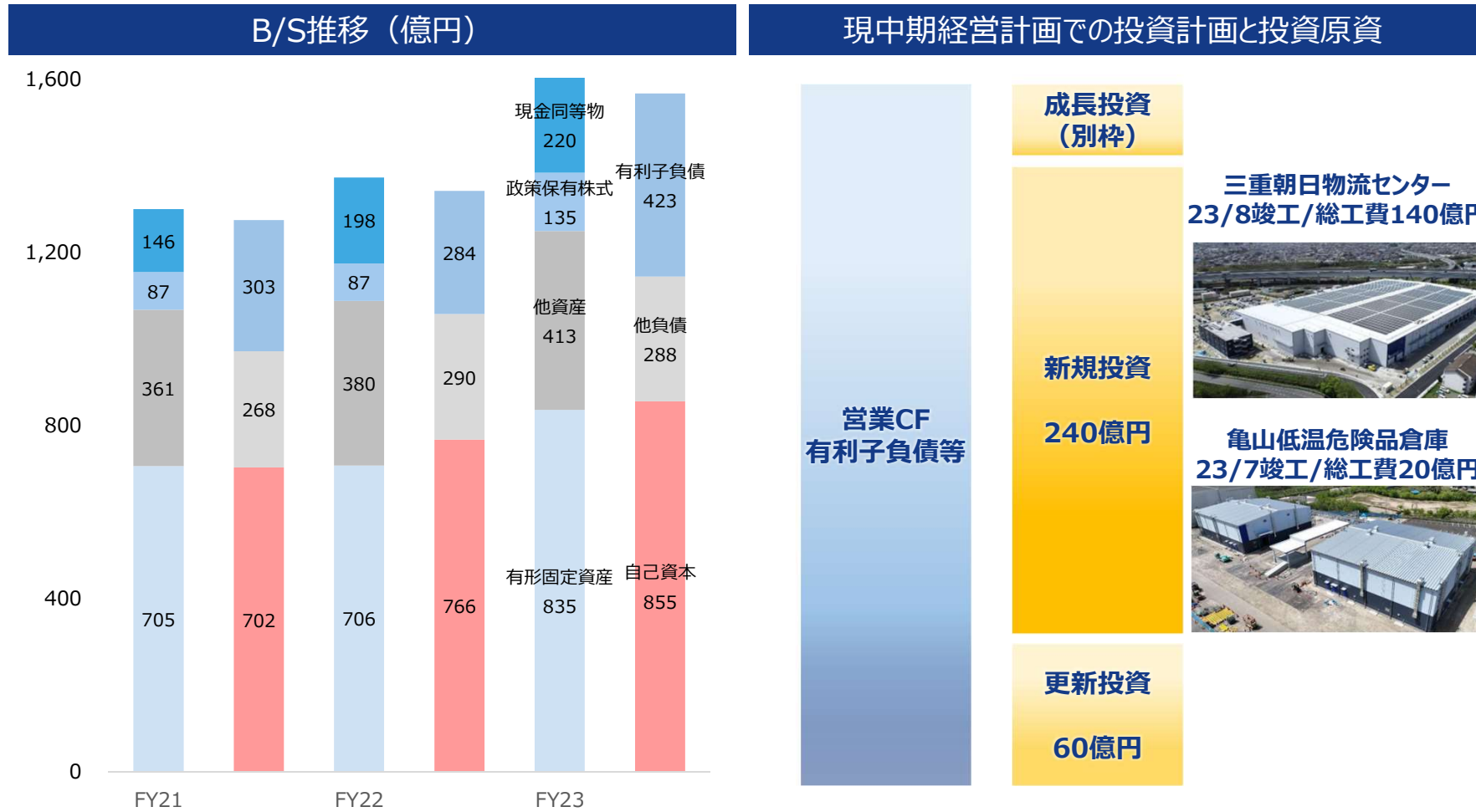
- 情報開示の拡充や投資家との対話推進、ESG経営の取組みによって、中長期的な成長期待の醸成、株主資本コストの低下を目指す





## 事業の公共性の高さから財務安定性は維持しつつ資本収益性も意識する必要

- 中部圏における国際物流拠点、四日市港が当社基盤。物流の安定・最適化は社会的使命  
中長期的な経営の安定のため財務安全性を維持しつつ、資本効率を改善



# 企業価値向上に向けた取組み/経営指標目標



## ROE・株主還元・自己資本比率の目標を新たに設定

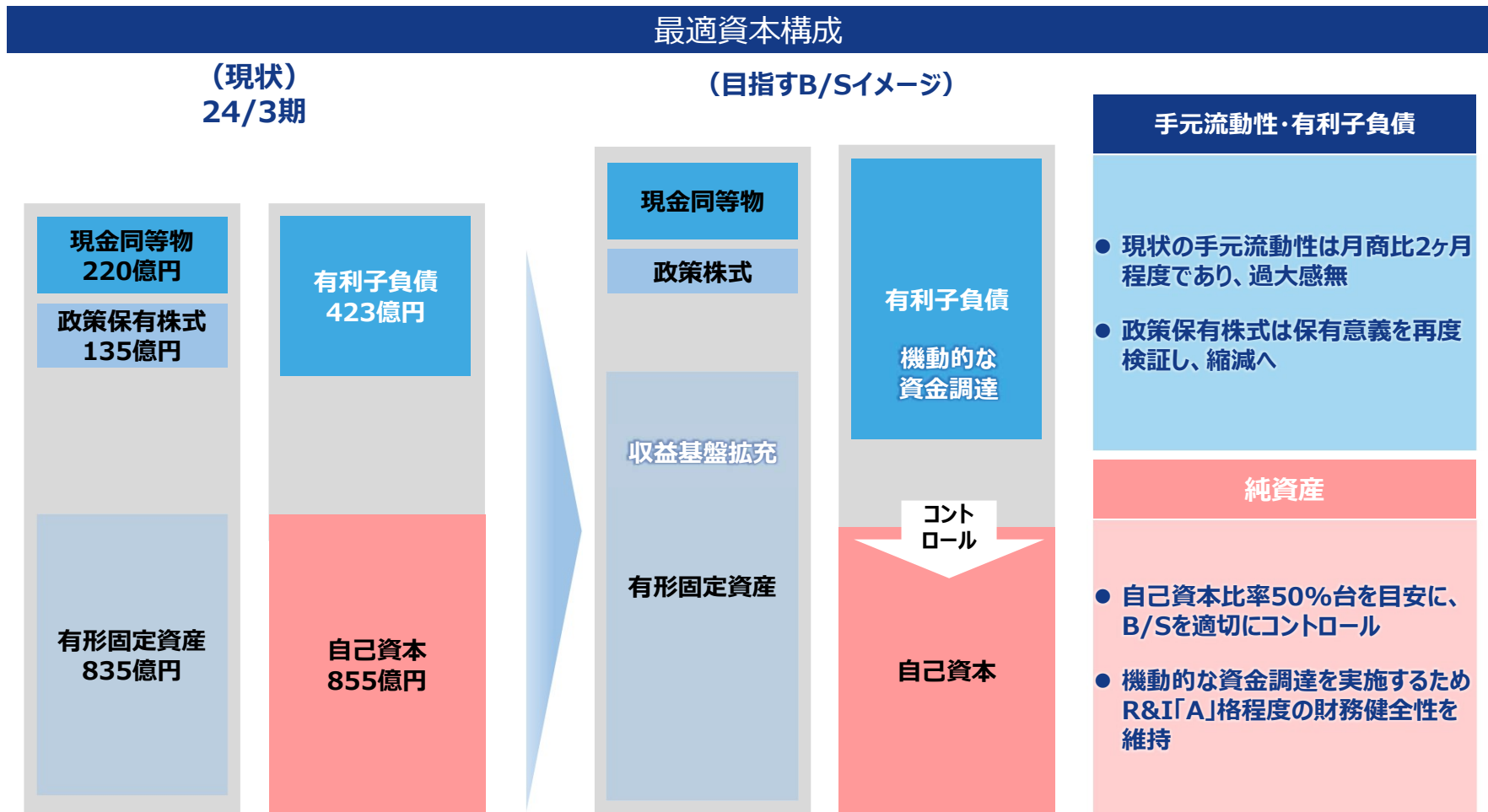
- 中長期的に8%超のROE水準への回復を目標  
最適資本構成実現に向けた株主還元的大幅強化、自己資本増加の抑制

| 項目            | 指標                      | 現中計最終年度目標                               | 中長期目標                            |
|---------------|-------------------------|---|----------------------------------|
| 業績目標          | 売上高                     | 1,300億円以上                               | -                                |
|               | 上方修正<br>経常利益<br>(経常利益率) | 80億円以上<br>(6.0%以上の維持)                   | -                                |
| 新設<br>資本収益性   | ROE                     | 6.0%以上                                  | 8.0%以上                           |
| 株主還元          | 配当性向<br>DOE             | 配当性向40%もしくはDOE2.0%の<br>いずれか高い金額を目安に配当実施 | 業容拡大、収益性改善とともに<br>更なる株主還元の拡充を目指す |
|               | 自己株式取得                  | 金額上限20億円<br>発行済株式総数5%を目途                |                                  |
| B/S<br>コントロール | 自己資本比率                  | 中長期的に自己資本比率50%台を目安としてB/Sのコントロール         |                                  |

# 企業価値向上に向けた取組み/目指すB/Sイメージ **TRANCY**

## 財務安定性と資本収益性のバランス、最適な資本構成の実現を目指す

- 事業特性上、一定程度財務の安全性は必要であり、自己資本比率50%台を目安 R&I格付「A」格維持を目線とした自己資本水準のコントロール実施



## 成長投資へ優先的に配分しながら、株主還元も大幅に強化

- R&I格付「A」格維持を目線とした自己資本水準のコントロール実施
- 目指すべきB/Sイメージ実現に向けた資本配分を実施

現中期経営計画24/3期-26/3期 キャピタルアロケーション

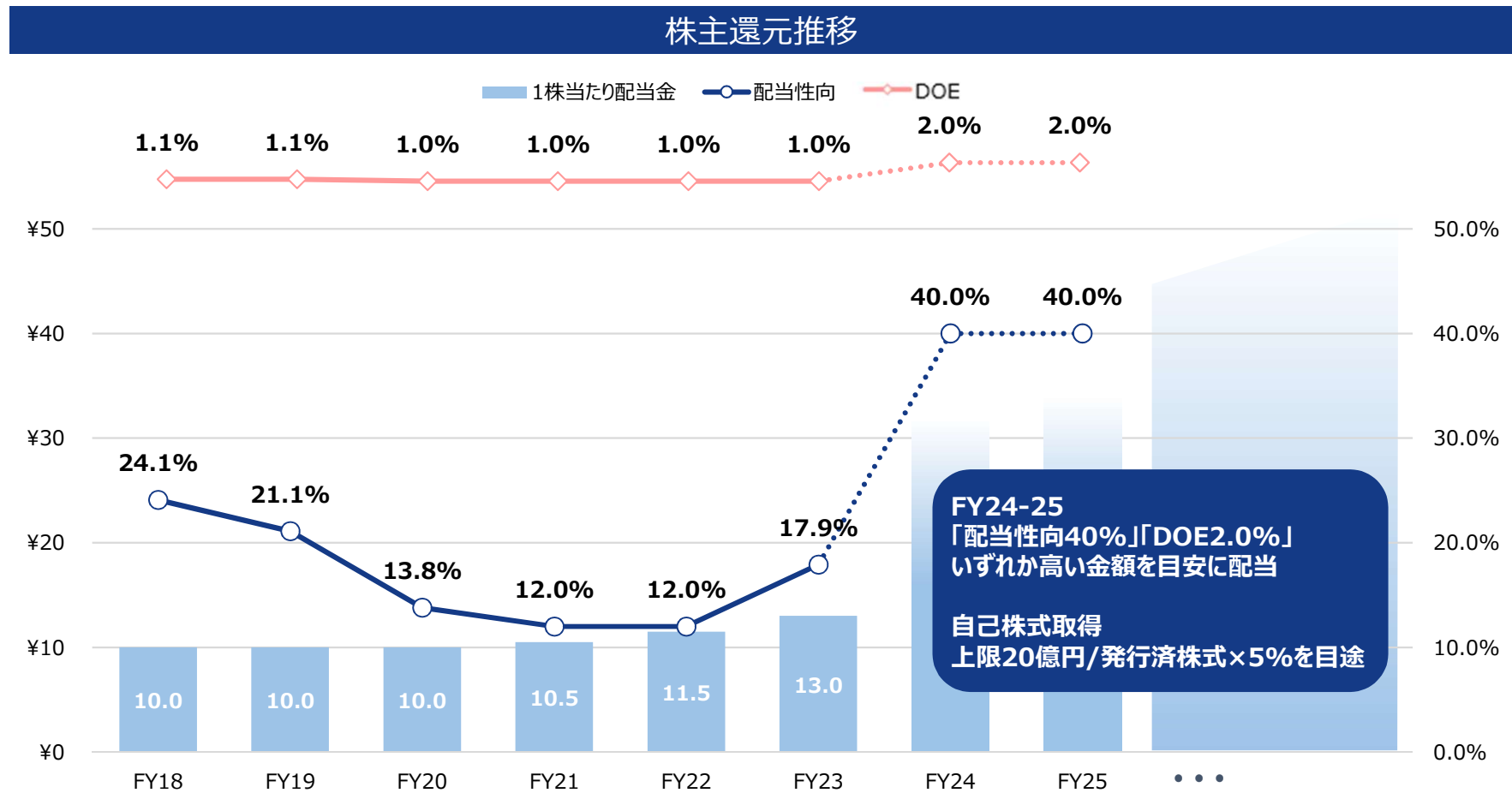


# 企業価値向上に向けた取組み/株主還元強化



## 株主還元目標の設定、最適資本構成実現に向けた還元強化を実施

- 安定配当は当社資本政策の根幹、累進配当から配当性向・DOEへ還元目標を転換することで株主還元強化と安定配当を両立





## 「Grow with the Next Value」



お問い合わせ先  
日本トランスシティ株式会社 総務部  
TEL 059-336-5018